タカナ栽培調査

１．　ねらい

鳥獣害の受けにくい品目として、平成20年より、ＪＡ紀南を中心に、タカナの契約栽培に取り組んでいるが、天候等による影響のため、収穫量が低い状況にある。平成24年産の生産調査を行い、高品質増収の技術の確立に生かしていく。

２．　調査内容

タカナの栽培地であるＪＡ紀南とＪＡみくまの(本宮地域)より、下記の点についての報告を受けた。

〇面積及び生産者数
〇生産状況
〇販売状況
〇その他(上記以外に気のついた事項等)

３．　調査結果

〇面積及び生産者数

	JA紀南		JAみくまの(本宮)	
	平成24年産	平成23年産	平成24年産	平成23年産
栽培面積（ha）	１．４１	２．３６	０．７３	１．０
生産者数（人）	２０	３５	８	１０

〇生産状況

11月：風と病気・害虫（ハムシ）で外葉がやられる。
12月：低温だったので生育が遅かった。
※年内は葉かきで出荷して、その後大きくして株取り予定でしたが想像以上に大きくならなく品質が落ちる一方だったので年内で終了させた生産者もいた。
※定植（10月20日）が大幅に遅れ老化苗定植と低温などの影響でサイズがかなり小さい生産者もいた。　以上　ＪＡ紀南

11月中は、コナガ等害虫被害が多く外葉が多く駄目になった。
12月上旬より出荷を始めた農家は、１０a当たり３㌧の収量があったが、中旬からの出荷については、霜被害により収穫量が少なかった。
３月収穫分においては、低温の影響により肥料の機器が悪く生育が遅れたり霜被害による品質悪化等のため収量が落ちた。
一部の地区で、年明けよりシカによる食害があり、防獣対策(ネット)を行ったが、収穫ができなかった。　以上　ＪＡみくまの

〇販売状況

ＪＡ紀南　57．2㌧（平成23年度）　30㌧（平成24年度見込み）
ＪＡみくまの　株出荷で13．9㌧（H24.12～H25.3.13）16㌧(平成24年度見込み)
平成23年度については、個人出荷のため全体の出荷量把握できず。

〇その他

・本年は気温の影響で生育は遅れた。
・今年度は12月に降雪があったが、特に被害はなかった。
・病害虫は昨年べと病が出たため早期から防除を啓発したためか、大きな発生はなかっ

た。
・山間地など気温の低い圃場は、暖かい時期にいかに大きくできるかである。
・天候等の影響で目標収量（所得）が得られず、意欲減退により撤退する農家もある。

以上　ＪＡ紀南

コーティング種子を購入し苗の栽培をした農家は、生育段階で失敗し播きなおしをしたり、根張りが悪いため苗植え付け機が利用できなく定植時期が遅れ生育に影響があった。
また、苗をうまく育てられなく２件が定植できなかった。
９月中旬に雨が多く定植時期が遅れ、トレー苗が肥料切れになり初期の生育が遅れた。

以上　ＪＡみくまの

４．まとめ
・面積及び生産者数は、平成23年度に較べてともに減少している。同時に出荷量も前年に較べて低下している。
・定植初期の病害虫(べと病・コナガ・ハムシ)の発生が多い。
・１２月収穫では、高収量があるが、２～３月収穫では、天候等に影響され、（低温・霜被害等）品質や収量の低下につながっている。
・苗育成がうまくいっていない。

５．対策（案）
・初期の農薬防除の徹底。外葉の生育が収量に影響する。
・山間部の栽培は、短期軟弱野菜と考え８月中～下旬のは種９月中～下旬の定植を心掛け、１１月～１月収穫とする。（タカナは寒さに弱い？）
・収穫が、２月以降になる場合には、防寒対策(マルチ被覆・トンネル栽培)を行う。
・は種は、直植えを原則とする。
・トレー育苗では、大苗栽培(３０日苗)し、根張りを良くして定植を行う。また、育苗期の乾燥に充分注意し、は種時は鎮圧を行ない乾燥を防ぐ。
・鳥獣害対策（シカ）の実施。